

会

報

社団法人 日本病理学会
 〒113-0033
 東京都文京区本郷 2-40-9
 ニュー赤門ビル 4F
 TEL: 03-5684-6886
 FAX: 03-5684-6936
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 254 号

平成 21 年 (2009 年) 3 月刊

1. 学術研究賞演説 (A 演説), B 演説の選考について

第 55 回 (平成 21 年度) 秋期特別総会学術研究賞演説 (A 演説), B 演説については, それぞれ 16 題, 4 題の応募があった。2 月 24 日の学術委員会にて審議し, 投票の結果, 7 題, 2 題を選考した。本件は, 同日の理事会において, 同委員会案のとおり決定した。

学術研究賞 (A 演説) (応募順)

1. 細胞老化に着目した肝胆道系疾患の発生・進展機構の解明: 佐々木素子 (金沢大学医学系研究科形態機能病理学)
2. インフラマソームの機能から考える炎症疾患発症の分子基盤: 増本純也 (信州大学医学部病理組織学講座)
3. モデル動物の解析による自己免疫疾患発症機序の多面的理解: 石津明洋 (北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野)
4. 疾患モデルの確立によるヒトがんの生体内での分子病理学的研究: 山田健人 (慶應義塾大学医学部病理学教室)
5. 胸腺移植併用による次世代の骨髄移植法の開発 — T 細胞の分化増殖・制御に向けて —: 保坂直樹 (関西医科大学第一病理学教室)
6. コレステロールによるマクロファージの機能制御: ACAT1 陽性特異オルガネラの同定から細胞内コレステロール代謝制御, ファゴゾーム機能障害, C 型ニーマンピック病治療戦略まで: 坂下直実 (熊本大学大学院医学薬学研究部細胞病理学分野)
7. SAGE 法で同定した Reg IV の各種がんにおける分子病理学的意義: 大上直秀 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学研究室)

B 演説 (応募順)

1. Lymphomatoid Gastropathy: 本邦発の新しい NK 細胞増殖症: 竹内賢吾 (財団法人癌研究会癌研究所病理部)
2. 乳腺の神経内分泌型非浸潤性乳管癌: 川崎朋範 (山梨大学医学部人体病理学講座)
坂元吾偉, 加藤良平

2. 学術奨励賞の選考について

2 月 24 日の学術奨励賞選考委員会で, 第 10 回 (平成 20 年度) 学術奨励賞受賞候補者を選考した。10 名の応募があり, 審議の結果, 5 名を選考した。本件は, 同日の理事会において, 同委員会案のとおり決定した。(ABC 順)

1. G-protein-coupled receptor kinase 4 の過剰発現と乳癌の腫瘍形成との関連性について
松林 純 (東京医科大学病理診断学講座)
2. 泌尿器科腫瘍における DNA 修復蛋白 ALKBHfamily の分子病理学的意義について
島田 啓司 (奈良県立医科大学医学部病理病態学教室)
3. 癌染色体不安定性の要因としての中心体複製制御機構異常に関する研究
新村 和也 (浜松医科大学医学部第一病理)
4. 慢性ウイルス感染症や自己免疫疾患など難知性炎症性疾患の病態解明
外丸 詩野 (北海道大学大学院医学研究科分子病理学分野)
5. 卵巣明細胞腺癌における新たな発癌経路の提唱と分子機構の解明
山本 宗平 (防衛医科大学校医学研究科病態病理学講座)

3. 臨床研究に関する倫理指針質疑応答集 (Q & A) について

標記のことにつき, 厚生労働省より周知の依頼が文部科学省を通じてありましたので, お知らせいたします。詳細は下記のホームページをご参照ください。

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/rinsyo/dl/gigisyokai.pdf>

4. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

佐藤秩子 名誉会員 (平成 20 年 12 月 27 日ご逝去)

佐藤英俊 学術評議員 (平成 21 年 3 月 2 日ご逝去)

お知らせ

1. 第 5 回腎病理夏の学校について

日 時：平成 21 年 8 月 22 日 (土), 23 日 (日)

会 場：香川大学医学部 (香川県木田郡三木町池戸 1750-1)

申し込み：平成 21 年 4 月 6 日 (月) から E-mail にて
(定員 96 名)

申し込 / 連絡先：

〒 761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院病理部 串田吉生, 羽場礼次

TEL: 087-891-2305 FAX: 087-891-2371

E-mail: byouribu@med.kagawa-u.ac.jp

主催：日本腎臓学会・日本腎病理協会

第3回 診断病理サマーフェスト

— 病理と臨床の対話 —

Diagnostic Pathology Summer Fest

Vol.3

テーマ：骨軟部疾患の病理と臨床

開催日：2009年 8月29日(土), 30日(日)

会場：東京大学医学部 鉄門記念講堂(教育研究棟14階)

対象：病理医, 整形外科医, 放射線科医など

参加費：20,000円(初期・後期研修医, 大学院生15,000円)

August 29, 2009 12:50-18:40

第1部 骨・軟部組織の構造と特徴
病理(久岡), 放射線(青木)

第2部 軟部腫瘍
病理(小田), 放射線(青木), 整形(高橋)

第3部 骨腫瘍
病理(山口), 放射線(福田), 整形(高橋)

19:00 懇親会(カポ・ペリカーノ)



August 30, 2009 9:00-12:10

第4部 非腫瘍性骨・関節疾患
病理(石田), 放射線(福田), 整形(山本)

第5部 総合討論

この会は、病理と臨床の対話を行なおうとするものです。お互いの対話によって理解し合い、明日の臨床に役立てることを目的としています。臨床医は病理を、病理医は臨床を学び、両者を結びつけて理解します。病理医のみならず、整形外科医、放射線科医の先生方も是非ご参加下さい。

◎講師

久岡 正典 産業医科大学 医学部 第1病理学 准教授
青木 隆敏 産業医科大学 医学部 放射線科 准教授
小田 義直 九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理学 准教授
高橋 満 静岡県立静岡がんセンター 整形外科 部長(兼 副院長)
山口 岳彦 自治医科大学 人体病理学部門・病理診断部 准教授
福田 国彦 東京慈恵会医科大学 放射線医学講座 教授
石田 剛 国立国際医療センター国府台病院 臨床検査部 部長
山本 卓明 九州大学大学院 医学研究院 整形外科 助教
(講演順, 敬称略)

主催：日本病理学会

第3回 診断病理サマーフェスト —病理と臨床の対話—

第1部 現場で役立つ基礎的知識を整理するために、骨・軟部組織の解剖や組織学的事項に加え、検体の取り扱いや免疫組織化学的マーカー、画像（CT,MRI）での見え方（原理や読影方法の基本）などを含めた解説を行います。

第2・3部 まず病理で今日のWHO分類に基づいた腫瘍分類の基本や腫瘍診断の進め方などの総論的な解説の後に、一般の病理医が十分に認識しておくべき腫瘍の臨床病理像や診断のポイントまたはピットフォール、最近の話題などを紹介します。次に放射線科的な診断の進め方や診断に有用な情報・代表的所見を紹介し、終わりに今日の腫瘍の治療法や患者の取り扱い、臨床から病理に対する要望などを整形外科の立場から解説します。

第4部 整形外科領域で扱う頻度の高い非腫瘍性骨・関節疾患について、組織検体の取り扱いや処理法、代表的疾患の病理組織学的特徴、そして病理報告書の記載の仕方などを病理側から解説し、放射線科および整形外科側からは、それぞれの疾患に特徴的な臨床上の所見や病理医も理解しておくべき治療法について触れる予定です。

第5部 2日間で取り上げられた内容に対する質問やコメントに加え、腫瘍診断・分類における問題点、それぞれの科から他科への要望などを参加者にとって有益な情報やエピソードなども取り上げながら包括的に議論します。

参加希望の方は、必要事項を明記のうえ下記に申し込み下さい。2009年4月1日より先着200名まで受け付けます。受付後参加費の振込口座（郵便振替）をお知らせいたします。初期・後期研修医，大学院生は所属長の署名による証明が必要です。

参加申込先： 社団法人 日本病理学会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

TEL 03-5684-6886 E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp URL: <http://jsp.umin.ac.jp>

FAX : 03-5684-6936

フリガナ	
氏名	
所属学会	
所属施設・ 部署	
連絡先 〔勤務先・自宅〕 どちらかに○を付けて下さい。	〒 TEL () FAX () E-mail: @

上記の者が〔初期研修医・後期研修医・大学院生〕であることを証明致します。

所属： 役職

署名： 印

日本病理学会コンサルテーションガイドライン

(平成 21 年 4 月 1 日から適用)

1. 目的と基本方針

病理診断に関して病理医相互の協力によって、診断の精度を高めるとともに、診療に役立つより多くの情報を引き出し、医療に貢献すること。病理診断の最終責任は依頼者にあることを確認したうえで、日本病理学会が適切なコンサルタントの紹介、有益なコンサルテーション意見を与えること。

2. 依頼者の資格

依頼者は原則として日本病理学会員とします。会員以外の臨床医からの依頼も受け入れますが、その際には、担当病理医の了解を得たうえで、担当病理医の氏名・所属・連絡先・メールアドレスを事務局にご連絡下さい。担当病理医あてにも報告書を送付します。

3. 依頼の仕方

コンサルテーションの迅速化と事務経費節減を目的として、電子メールを用いた方法に変えていきたいと思えます。当面は電子メールを用いた新しい方法と、従来の方法との2本立てで運用しますが、できるだけ電子メールを用いた方法で依頼して下さい。

A) 電子メールによる方法

依頼者がすること

(1) 所定用紙（依頼用紙・報告用紙）のダウンロード、記載、病理学会事務局への送付

- ① 日本病理学会コンサルテーション所定用紙のワードファイルを学会 HP よりダウンロードして、依頼用紙に領域番号、病歴（臨床経過、治療・処置）、肉眼所見、特染、依頼者の病理診断、症例の問題点などを記載して下さい。領域番号（下記参照）はコンサルタントを選ぶために使用します。必ず記入して下さい。
- ② コンサルタントとして希望される方があれば、コンサルタント名簿より選んで、依頼書ではなく事務局宛メールに記載して下さい。名簿に含まれていない病理医へのコンサルテーション斡旋はいたしません。
- ③ コンサルタントが使用する報告用紙の上部にも記載して下さい。
- ④ 患者の特定につながる情報（受診医療機関名、氏名、イニシャルなど）は記載しないで下さい。病理診断に重要と考えられる情報（顔面などの肉眼所見写真、生検日、手術日など）を用紙に記載する場合でも患者の特定につながらないようにご配慮下さい。
- ⑤ これらの2つの用紙を、病理学会事務局のメールアドレスに添付ファイルで送って下さい。事務局では、依頼書の内容からコンサルタントを決め、コンサルタント候補者へ用紙を転送し、同時に依頼者にはコンサルタント氏名、住所、コンサルテーション番号をお知らせします。

(2) ガラス標本と資料をコンサルタントへ送付

- ① 事務局で決定したコンサルタントへ、HE 染色標本 1 セットおよび未染標本 10 枚前後、事務局より返信されたコンサルテーション番号入りの所定用紙をプリントしたもの、マクロ写真や切出し図のプリントなどを郵便または宅配便で送って下さい。免疫染色や特染なども必要に応じて同封して下さい。依頼者が会員以外の臨床医の場合には診断病理医の許可を得た上で、その病理診断報告書のコピーを併せて送って下さい。標本はコンサルタントの手元に保管され返却されません。
- ② ガラス標本が破損しないよう、十分注意して下さい。また封筒の破損、標本とケースあるいは標本同士の粘着が起らないようご注意ください。
- ③ プレパラートには、施設の標本番号以外の検体帰属情報は記載しないで下さい。病理診断書のコピーを添付する場合は当該部分を十分マスクして下さい。
- ④ コンサルタントが回答を辞退した場合には、事務局の方で別のコンサルタントに回します。

(3) 手数料

あらかじめ2,000円を下記の郵便振替口座に払い込み（払い込み票通信欄に「コンサルテーション手数料」と明記のこと）、その払い込み日を、所定用紙を送るメールで事務局に知らせて下さい。銀行振り込みをご希望の方、あるいは各施設独自の払い込み方法をご希望の方は事務局にお尋ね下さい。ご希望があれば領収書を発行いたしますが、入金確認後になりますので多少時間がかかることを予めご了解下さい。

郵便振替口座払込先：（加入者名）社団法人日本病理学会（口座番号）00130-4-32817

コンサルタントからの報告

コンサルタントのコメントは、依頼者の元にメールで送られます。原則として印刷物は送りませんが、郵送が必要な場合には切手を貼った返信用封筒をご用意下さい。

依頼方法や個人情報の取り扱い等について不明の点があれば、事務局へ問い合わせして下さい。

B) 郵便による方法（従来とほぼ同様）

依頼者が送付するもの

(1) 所定用紙（依頼用紙、報告用紙）

- ① 本誌綴じ込みの日本病理学会コンサルテーション所定用紙をコピーしてお使い下さい（学会HPよりダウンロードもできます）。依頼用紙に、領域番号、病歴（臨床経過、治療・処置）、肉眼所見、特染、依頼者の病理診断を記載して下さい。領域番号（下記参照）はコンサルタントを選ぶために使用します。必ず記入して下さい。症例の問題点など、記載しきれないときには、別紙に記載して下さい。必要があれば、肉眼写真、切り出し図、X線写真、電顕写真なども送って下さい。依頼者が会員以外の臨床医の場合には診断病理医の許可を得た上で、その病理診断報告書のコピーを併せて送って下さい。
- ② コンサルタントとして希望される方があれば、コンサルタント名簿より選んで別紙に記載して下さい。名簿に含まれていない病理医へのコンサルテーション斡旋はいたしません。
- ③ コンサルタントが使用する報告用紙の上部にも記載して下さい。
- ④ 患者の特定につながる情報（受診医療機関名、氏名、イニシャルなど）は記載しないで下さい。病理診断に重要と考えられる情報（顔面などの肉眼所見写真、生検日、手術日など）を用紙に記載もしくは添付する場合でも患者の特定につながらないようにご配慮下さい。病理診断書のコピーを添付する場合は当該部分を十分マスクして下さい。

(2) ガラス標本

- ① HE染色標本1セットおよび未染標本10枚前後をお送り下さい。免疫染色や特染なども必要に応じて同封して下さい。標本はコンサルタントの手に保管され返却されません。
- ② ガラス標本が破損しないよう、十分注意して下さい。また封筒の破損、標本とケースあるいは標本同士の粘着が起らないようご注意ください。
- ③ プレパラートには、施設の標本番号以外の検体帰属情報は記載しないで下さい。

(3) 返信用封筒

80円切手を添付した依頼者宛返信用封筒を1枚同封して下さい。報告はコンサルタントから直接依頼者へ郵送されます。標本は原則として返却されません。

(4) 手数料

あらかじめ3,000円を下記の郵便振替口座に払い込み（払い込み票通信欄に「コンサルテーション手数料」と明記のこと）、その払い込み票のコピーを同封して下さい。銀行振り込みをご希望の方、あるいは各施設独自の払い込み方法をご希望の方は事務局にお尋ね下さい。ご希望があれば領収書を発行いたしますが、入金確認後になりますので多少時

間がかかることを予めご了解下さい。

郵便振替口座払込先：(加入者名) 社団法人日本病理学会 (口座番号) 00130-4-32817

依頼方法や個人情報の取り扱い等について不明の点があれば、事務局へ問い合わせして下さい。

領域番号

01 感染症	10 胃	20 胎盤	28 神経変性疾患・筋肉
02 心・血管	11 腸	21 リンパ節・脾・悪性リンパ腫疑い	28-1 神経変性疾患
03 口腔	12 肝	22 骨髄	28-2 末梢神経・筋肉疾患
04 頭頸部(唾液腺・鼻腔・耳を含む)	13 胆道・膵	23 下垂体	29 骨・関節
05 眼	14 腎・尿路	24 甲状腺・副甲状腺	30 軟部
06 縦隔	15 腎炎	25 副腎	31 皮膚
07 肺・胸膜の炎症性疾患	16 前立腺	25-1 副腎皮質	32 小児
08 肺・胸膜の腫瘍性疾患	17 精巣・精囊・陰茎・陰囊	25-2 副腎髄質	33 その他
09 食道	18 外陰・膣・子宮・卵管	26 乳腺	()
	19 卵巣・腹膜	27 脳・脊髄腫瘍	

4. 依頼者が了解しておくこと

診断の最終責任は依頼者にあることに留意して下さい。依頼者が病理学会会員以外の臨床医の場合には、病理診断をした依頼施設の病理医に最終責任があると判断されます。依頼施設の病理診断とコンサルタントの診断とが異なる場合には、依頼施設の病理医とよく相談して下さい。

コンサルタントには無報酬でお願いしてありますので、コンサルタントにとって過度の負担とならぬよう的確な依頼書の作成と標本の送付をお心がけ下さい。また、特染の無理な依頼、過度の枚数の標本の送付、所見の記載不備などが生じないように配慮下さい。回答が遅れている時やその他の問い合わせは病理学会事務局までお願いします。

5. コンサルテーションの送り先

(社) 日本病理学会事務局内 コンサルテーション係

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

郵送の場合には、事故を防ぐため、簡易書留あるいは宅配便をお使い下さい。

〒113-0033 東京都文京区本郷2-40-9 ニュー赤門ビル4F

電話: 03-5684-6886 FAX: 03-5684-6936

6. コンサルタントにお願いする事項

A) 電子メールによる方法

- ① 事務局からコンサルテーションの依頼を受けた際、ご自分の専門領域でない症例、お得意の分野でない症例の場合、あるいは時間的余裕のない場合には、お断りいただいて結構です。メールで速やかに事務局にお返事下さい。その際適当なコンサルタントをご紹介いただくと幸いです。引き受けられないにもかかわらず、時間的な関係で標本が届いてしまった場合には、事務局まで速やかにお送り下さい。長期出張等でコンサルトを引き受けられない期間はあらかじめ病理学会事務局にご連絡下さい。
- ② 依頼者からプレパラートと印刷された書類などが送られてきます。受け取られたら、まず内容を確認し、資料の不備、プレパラートの破損状況などを調べ、到着確認のメールを依頼者と事務局の両方に送って下さい。回答を報告用紙に記載したらこれを、速やか(2週間以内)に依頼者と事務局の両方に添付ファイルで送って下さい。依頼者にはPDFファイルでもかまいませんが事務局にはワードファイルでお送り下さい。依頼者が郵送による回答を希望し、切手を貼った返信用封筒が添付されている場合には、郵送して下さい。依頼者が会員以外の臨床医であって、コンサルタントの診断が、依頼施設の病理医の診断と異なる場合には、できるだけ当該病理医とも

ディスカッションするようにして下さい。なお、依頼者から送られてきた資料は返却不要です。

- ③ 事務局にメールで報告用紙が届いた時点がコンサルテーション終了の日時として正式に記録されます。
- ④ 報告するにあたって、データの不明点などはご自由に依頼者にお尋ね下さい。
- ⑤ 臓器別チーム責任者による診断標準化の取り組みや、教育的症例の病理学会会員への供覧の企画などにご協力下さい。

B) 郵便による方法（従来と同様）

- ① コンサルテーションを受けた場合は、速やか（2週間以内）にご回答下さい。ご自分の専門領域でない症例、お得意の分野でない症例の場合、あるいは時間的余裕のない場合には、お断りいただいて結構です。その場合には標本を速やかに日本病理学会事務局に着払いにてご返送下さい。その際適当なコンサルタントをご紹介いただくと幸いです。
- ② 長期出張等でコンサルトを引き受けられない期間はあらかじめ病理学会事務局にご連絡下さい。
- ③ 報告用紙は原本を依頼者へ、コピーを事務局へお送り下さい。
依頼者へE-mailで報告した場合でも、必ず郵送で報告用紙に記入し事務局にお送り下さい。事務局に報告用紙が郵送で届いた時点がコンサルテーション終了の日時として正式に記録されます。
- ④ 報告するにあたって、データの不明点などはご自由に依頼者にお尋ね下さい。
- ⑤ 依頼者が会員以外の臨床医であって、コンサルタントの診断が、依頼施設の病理医の診断と異なる場合には、できるだけ当該病理医ともディスカッションするようにして下さい。
- ⑥ 資料の不備など、お気づきの点がございましたら、事務局までお知らせ下さい。
- ⑦ 臓器別チーム責任者による診断標準化の取り組みや、教育的症例の病理学会会員への供覧の企画などにご協力下さい。

7. 当該症例のプライオリティについて

コンサルテーション症例の学会や論文での発表に関しては、その出所である依頼者に優先権があると考えられます。コンサルタントが依頼症例を研究資料として使用する際には依頼者と患者の同意が必要です。その際には、依頼者にご協力をお願いいたします。また、依頼者が症例報告をする場合でもあらかじめコンサルタントとよく話し合ってください。

8. コンサルタント名簿（平成21/22年度）

秋山太 新井栄一 新井富生 石川雄一 石黒信吾 石田剛 泉美貴 伊藤雅文 井下尚子 今北正美 入江準二
 岩崎宏 岩田純 梅村しのぶ 大内知之 大倉康男 大島孝一 岡輝明 小川郁子 長村義之 小田義直 小幡博人
 覚道健一 鹿毛政義 加藤良平 亀田典章 岸本宏志 清川貴子 九嶋亮治 黒住昌史 黒田直人 小島勝 小西英一
 小森隆司 坂本穆彦 坂元亨宇 桜井孝規 佐々木恵子 笹野公伸 定平吉都 佐野壽昭 清水道生 白石泰三
 新宅雅幸 城謙輔 鈴木正章 仙波伊知郎 園部宏 高田隆 田口尚 竹下盛重 武村民子 立山尚 田中祐吉
 田丸淳一 津田均 土屋眞一 都築豊徳 堤寛 手島伸一 長尾俊孝 長坂徹郎 中里洋一 中島孝 中嶋安彬
 長嶋洋治 名方保夫 中谷行雄 中沼安二 中峯寛和 中野盛夫 中村栄男 中村眞一 中村直哉 中山雅弘
 二階堂孝 仁木利郎 西川俊郎 野島孝之 橋本洋 長谷川匡 原一夫 久岡正典 比島恒和 平戸純子 廣川満良
 廣瀬隆則 福岡順也 福田悠 福永真治 藤林真理子 本間慶一 松壽理 松野吉宏 松原四郎 松本俊治 三上芳喜
 水口國雄 湊宏 本山悌一 森永正二郎 森谷卓也 八尾隆史 安田政実 谷田部恭 柳澤昭夫 山口岳彦 山鳥一郎
 横山繁生 吉川洋 吉野正

日本病理学会医療業務委員会
 同コンサルテーション委員会

(社) 日本病理学会コンサルテーション

依頼用紙

Consultation No.:

受付日:

コンサルタント: 先生

この度、病理学会コンサルテーションシステムを通じ、下記症例のコンサルテーションをお願いしたく存じます。ご高配くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

依頼者記入欄

依頼者氏名:		(ふりがな:)	
所属:			
所属住所: 〒			
TEL:		FAX:	
E-mail:		記入日:	
患者年齢: 歳	性別:	標本番号:	
臨床診断:		採取日:	
臓器名:	部位:	領域番号 (ガイドライン参照):	
標本の種類: <input type="checkbox"/> 生検 <input type="checkbox"/> 手術 <input type="checkbox"/> 剖検 <input type="checkbox"/> 細胞診 <input type="checkbox"/> その他 (具体的にご記入下さい):			
臨床経過 (患者の特定につながる医療機関名などの情報は記載しないこと):			
治療・処置:			
肉眼所見:			
特染:			
問題点:			
依頼者の診断:			

報告用紙

Consultation No.:

受付日:

依頼者記入欄

依頼者氏名:	依頼者の所属:
回答送信先 1 依頼主 E-mail :	
2 病理学会事務局: jsp-admin@umin.ac.jp	
患者年齢 : 歳	性別: 標本番号:

コンサルタント記入欄

病理診断意見	
コンサルタント氏名 :	所属:
TEL:	FAX: 標本受理日:
E-mail:	診断日:

注: この診断意見は (社) 日本病理学会の活動の一環として無償で提供されたものです。診断の最終責任は依頼者にあることに留意して下さい。